

国際社会学部

谷 一巳

TANI Kazushi

国際関係コース／ヨーロッパ

国際政治学／外交史



外交史とは

我々が当たり前のように目にしている外交という営みは、いつから始まったのでしょうか。究極的に言えば、人類の黎明期に近接する集団との土地や水をめぐる争いを解決するところが起源だったのかも知れません（外交の歴史は戦争の歴史と表裏一体であるとも言えます）。しかし、「大使館」や「外交官」、「国際会議」が今のような性格で登場し、外交の制度化が進んだのは16世紀以降のヨーロッパであり、ヨーロッパ域外への拡大に至っては19世紀後半頃から進んだ比較的新しい現象です（もちろん他の地域には、それ以前から独自の国際秩序が存在していました）。外交史という学問では主に近代以降を対象としながら、現代の国際社会を取り巻く制度や秩序がどのように成立したのか探求します。

研究紹介

20世紀初頭のイギリス外交史を専門としており、特に1904年に締結された英仏協商とその影響を研究対象としています。この協定によってイギリスはフランスやその同盟国であるロシアと接近することになり、結果としては第一次世界大戦の構図が成立しました。しかしながら、話はそれほど単純ではありません。まず、わずか6年前にファシヨダ事件で開戦寸前の状態に陥った英仏両国は、なぜ急速に関係を改善できたのでしょうか。また、結果としてイギリスは英仏協商が大きな要因となって第一次世界大戦に参戦しますが、この協商自体は単なる植民地の利権に関する協定であり、軍事同盟ではありませんでした。なぜ性質が変わったのでしょうか？さらに、英仏協商が締結された頃には、イギリスの同盟国である日本とフランスの同盟国であるロシアの間で戦争が起きていました。互いに敵対する交戦国と同盟関係にある2つの国が接近するという不思議な状況は、どのように成立したのでしょうか？各国の外交文書を中心とした一次史料を用いながら、英仏協商を20世紀初頭の外交史の大きな流れの中に位置づけることを目指しています。



担当授業

- 政治学入門3「国際政治学入門」
- 国際政治概論2「国際社会の中の日本」
- 国際政治論1・2「近代・現代ヨーロッパ国際関係史」
- 国際政治論演習1「20世紀の国際政治史」
- 国際政治論演習2「指導者から見る国際政治史」

関連する分野

- 国際政治学
- 外交史
- 軍事史
-

出版物

- 『帝国とヨーロッパのあいだでーイギリス外交の変容と英仏協商、1900-1905年』（単著）
- 『アメリカのアジア戦略史』（一部翻訳）

国際社会学部

外交史ゼミ

どのようなゼミか

本ゼミは、近代以降のヨーロッパを中心とした外交を対象としています。2024年度は、春学期ではこの分野を大まかに理解するためのテキストを輪読した後で、「世界大戦の時代」とも言われる20世紀の外交史を概観します。秋学期では、欧米諸国の君主や政治家の評伝を読み、彼らがどのような決断を迫られ、指導力を発揮したのか考えます。

皆さんがヨーロッパと聞いて思い浮かべるのは、(スポーツや文化を除けば)2010年代半ばからの欧州難民危機や2016年の国民投票に始まるイギリスのEUからの離脱をめぐる一連の騒動、あるいは「ポピュリズム」と呼ばれる動きの台頭でしょうか。さらに近年では、ロシアによるウクライナ侵攻を想起する人も多いでしょう。端的に言って、ここ最近のヨーロッパは平和とか民主主義のモデルと言ったイメージからかけ離れた状況に見えます。

しかし歴史を振り返ってみると、冷戦が終結してその後の混乱もある程度は克服し、EUの下で国家間の対立を乗り越えて統合を推進していた、平和で世界の模範となるべきヨーロッパの方が例外だったのかもしれない。と言うのも、16世紀から17世紀のヨーロッパ諸国は宗教上の対立をめぐる戦争を繰り返しましたし、19世紀にはアジアやアフリカに進出して現地の勢力を蹂躪し、資源や労働力を搾取しました。20世紀の二度の世界大戦の震源地となったのもヨーロッパですし、冷戦中には東西対立の最前線としてヨーロッパは分断状態にありました。このように、常に平和だったとはとても言えず、最近では人口や経済力といった分かりやすい指標においても地位を低下させつつあるヨーロッパは、なぜ未だに国際社会において強い影響力を持っているのでしょうか。

その理由の一つが、そもそも現在の国際社会を規定している慣習やルールがヨーロッパ諸国(とアメリカ)を中心として形成され、明治期の日本に見られるようにそれ以外の地域も(自発的か否かは別として)それを受け入れたということです。例えば、海外旅行でパスポートを紛失した時には現地の日本大使館に行きますが、初めてお互いに大使館を設置したのはイタリア半島の都市国家でした。遣唐使のようなアドホックな使節ではなく、専門的な教育と訓練を受けた外交官が初めて登場したのも、彼らで構成される外務省が初めて成立したのもヨーロッパでした。本ゼミでは、現在の国際社会を理解する一助として、ヨーロッパの外交史に焦点を当てて文献を輪読していきます。

卒論

- 2024年度からの開講です。
- できれば近代以降のヨーロッパを政治や外交、軍事の面から研究してもらいたいと考えていますが、他の地域や近接する分野をテーマとしても問題はありません。

おススメの本

- 岩間陽子・君塚直隆・細谷雄一編『ハンドブック ヨーロッパ外交史』
- 小川浩之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史』